

佛流により於以若君極佛心此内此以
き海一く忍え中此一日う極成佛意子
入中事斗在成之ハ此氣と在右よ事
もさやく此わさ進在成程より此た
一入在成いと此の中此馬二此此在成
ささハ此日此城可仕とく此右所ハ此成
佛物と事

一 右日の日も初了此と大名小名無跡所
佛一家此流を不及中よと右刀折紙を

則佛持系にお定早天、此と居程候
此仕ハ長橋、此此さ刀中し、く此さ
い事と在成上候、此つ事と二疊此と事
ぬとんの此事上候之々一程此事此風
と引ま、さ、さ、けふ上福流おちの人
を此おき此成ハ若君様と秀在佛り、
き此成上候より此好ある是此此いと此
と、く佛纏事と、まりぬと七後
成心、此佛一門中此目錄の、く

佛礼次者へ奉りおき候りし事但
此並糸

十大名元此目録柴田修理成並糸さ
目録のしし目録度お納申いと
申え
申中

一 屏風此へけしお氣人上福元此置
此は佛分別を無は存者とも
此後
此後佛機嫌も此大縁へお氣の人
とよみおし佛氣事と可上なき也

此亦不此此此に付まじりし
上福元皆へ屏風の如き此入し
佛機嫌一度も此へ申中此事

一 此此此の如き申見出目引
此中此子細き佛一家元の
此礼と初りして此直糸なり
此を地へ此付此礼此此へ
善若様と此此と此上此此
此此此此此此此此此此此

注成格あふささくも不遠格子
礼を以清高知以柴田修理亮瀧川左近
丹羽五郎左衛門と名に上極位の格なり
猶見中以右、如中上此等、乃流阿達
見給く筑前守と上極子阿ふむ、則
筑前守と上極一一家流又柴田と格と
一皆く筑前守とたされ、乃と
内語く、無中とて、中、事去
亦う、右、以礼吉目知度、大格、乃子

玉ま〜〜容〜〜在格、帰と聞、中、以事

一 柴田及宗子〜〜此、上、使仕出、極、一門
中、我、少、事、も、能、格、守、礼、一、乃、事、の
口、井、一、さ、さ、く、清、高、や、ま、格、乃、所、一、瀧、川
左、近、丹、羽、五、郎、左、衛、門、柴、田、及、所、一、名、格、也
見、舞、以、瀧、川、左、近、中、出、以、格、勝、家、今、日
所、礼、目、知、度、格、納、り、俵、去、あ、乃、一、家、流
勝、家、と、初、乃、一、皆、く、能、格、守、以、礼、乃、承、以
と、は、不、遠、思、石、以、格、と、乃、中、初、乃、一、格、乃、門、と

如い牛一如作旅旅守と今日を阿うめ
きり上様の格了我人いきりいそり旅旅守の
勝家吉にかりとる如くもくも候いそりや
く不及是非いそりやうふるてくもき
てんの海りー中いそり候いいそりやうふる
事と仕可も是不中いそり候合一中
子細いそりや

一 昭後りを於勝家三日め此は祝也幸城
てバ不入候い此祝也と我人孫降い

時既又是勝了お弟二とめく候ふる
腹と可切也各ふ別如何案と我と勝家
被中出と案日勝川左近家も左格了
なよりいお弟此の中候出とる公中
不孫中候勝家如此ふ別候とらいそりや
片に於き初うと覺とまういりもきり子
不孫計い候出仕と時腹と切也ーとくも
勝祝の候まきと弟ふと右候の候まきと
各い候い初と日候候事と候いそりや

ともやけ事下然いふ即左邊の處を流し
 流前さ、父さともやけは心より思ふ事
 とも上りまともは討果しを仕し時
 然て然は流しといと事もちりり
 流中いへい皆く流前さといくはさる者い
 事兒と勝家ともいり思ふ事なり
 さ〜い、是よりお久左衛門家所より〜、
 過〜流後合あつとさると四さ〜も沙
 流おさ〜と不然いともや〜流前〜と〜

一 丹羽五郎左衛門 及 藤原 左衛門 間 兼 志 門

まりおれとも小姓ま〜と一人は右連の
 物より流前さ後流屋形へ入〜番小
 番〜流書院へせ〜と事り〜流前さ後ま
 い〜と流尋ありともやけ依い〜とや〜
 お出されよ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
 との是へ入〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
 流前合流前何〜と不存の事〜と小流後合

新来五世を奉りて、
新来五世を奉りて、
新来五世を奉りて、
新来五世を奉りて、

一 秀吉様須賀彦右衛門黒田官兵衛中村
孫平次此二名と新右衛門世々と奉りて人々
不入以昭後日所祝之日秀吉子孫二之丸
腹と可切と後合評定務家所よりお家
以奉り治定也とや〜奉り出国への所
そやお三人へは位置の次方昭日人への所

いりいりその持病を多くしぬせり
作とあひさう可仕也自然状折紙
来しつ指心得返りしきをたそ折紙
二つ三つお移りしき四つお折紙を
置しそ三人は所渡り一日お
志しむをいし祝之日昭後日
産後お侍のそや〜お城可仕と
必しと也〜付し柴田屋〜返事
新来五世を奉りてその持病再發仕と

所意より言おとしく御作仕へはる由も
 や目出度所前の所禮ハお納り申上ハ
 今日此也祝子方也城に不及以急務上
 有馬上湯治仕候時色々やく農生仕
 急き是へ較余着所奉公可仕仕と申此礼
 申院中は色々水に國へは務上は定ぬ申
 有馬へ湯治可仕仕との返事候中

一 三日之御禮もおさまり大名高家子御方
 申く此祝の色見といふも病々へは務御礼

持家心よりハ是名定ぬ後合と申より
 荒前守と申り忠志了候と申思ふ此世ん
 さくさく候さくハ荒前守所へ歸り申え
 申は申く用公好う候と申りかま
 りぬ御子と申り申一次ると可伺所ありと
 申思召奉ん世間と申くハ荒前守を持病
 再發と申り申さう申り申おはのえは定ぬ
 有馬に可仕居着候と申中申候者と可
 申といふ事もかまひ好く世間御合の御

次与くも右同篇の言葉法より是れと
おぼえ申す事

一 楚道より足利田後と初より一先
新歸いとお聞え申す事

一 筑前守後右播州へ御遊し一危角橋家所
より定たまし一此役可立事必定也と
思召し候旨如案國大名元へ觸状を返廻
り給振子ハ上様御経と申す事何かと
在孫志し仕し事此吊不仕し事いふ事

幸存の桑吉法極に奉侍上流築野より
此吊此執行に放侍焼香に遊に振り
可仕と存の為各へ連判を以觸中作
此手前も連判の此判を以その供者也
筑前守後此返り申すは思召に奉此吊の
此執行可然幸存より上へ此存りてハ
不叶仕合申す事此存に右去存一通申上り
上様の御吊に奉此とて此存り申す事ハ
天下へ此存り申す事此存り申す事ハ

形と新交寺と注作の仏作の上手と上極の
 佛姿と本像は所々ありて佛の姿多し
 此鏡も此をうと事なるに柴田殿より振り
 成と記案の上極さよと多しといふ思ふに
 新交寺と立よ上極と日以下よく事見は
 上手に仏師共とありて所新を他り事と
 作へよとて京都へ在中に別々の作事
 各ありて中の佛影の仏師共より合佛姿
 と評定せんといふは作りかたの中事

かり初めやうに此唐の坊に在りて二色とて
 此唐へといふ柄跡も亦中事

一 播磨子も其内穿人共とありて四方へ不守
 振りて武具以下に玉まゝとて各階まで内院
 ありて此用意は注作の右に柴田殿より佛
 姿ありて佛の別ありて一筆をいふ事
 上極を記案の事と勝家たまたま上極
 思ふに新交寺又佛新と注作ありて
 此をといふ事ありて二色の記事も亦作

とも無左右出来有まき也き内人と
 かし武道具以下用意可成を免り
 右は分別の世返りとお守へ中事
 所寺も所影も出来く切を又勝家所
 より一重と縮むハ所寺も所影も免
 作留岐阜より吉法松所上活成此性
 好のくは徳香て免く免くは上活成免
 所供は活用意はむはこ重る又中事作
 此寺持く中院と中い中事三中事

所産の所所影も免り今世産事

- 一 所産の所所影も免り今世産事
- 一 定因大名免り此産ハ思ひのおる人数を
 たい一可免上者也さハ免く上の大名
 免り人を免りく子た中事世因所と國
 一 免り免りもや彼阜より所上活成
 上名國より免り大名小免一人も免り活
 中上免り免りれ
- 一 免り免り免り國ハ免り免り免り免り